

本リリースは、金融記者クラブで配布しています。

[プレス・リリース]

ハートフォード生命、 マーク・トウェインの作品研究を通じ、 教員育成及び異文化理解促進を支援

～津田塾大生の米国での教員向けワークショップ参加を支援～

[東京 2007年8月14日]

ハートフォード生命保険株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：グレゴリー A. ボイコ、以下「ハートフォード生命」）は、教員育成及び異文化理解を促進することを目的に、昨年に引き続き、津田塾大学（所在地：東京都小平市、学長：飯野正子）の教員志望の学部生および大学院生5名の、米国コネチカット州ハートフォード市にあるマーク・トウェイン・ハウスでの教員向けワークショップへの参加を支援いたしました。「トム・ソーヤの冒険」で知られる作家、マーク・トウェインが作家としての全盛期を過ごした邸宅は、現在ハートフォード市で博物館として残されており、教育活動の拠点となっています。

日本で最も由緒ある女子大学のひとつである津田塾大学の5名の学生は、7月23日から27日まで開催された、「マーク・トウェインと無作法な民族」と題された教員向けワークショップに参加しました。帰国した学生達は、日本の教育環境に適した形でマーク・トウェインの生涯と作品に関する授業プラン及び教材を作成し、8月19日に津田塾大学で開催される発表会において、その授業プラン及び教材を基に、現役の高校生に対して模擬授業を行う予定です。また、この教材は日本全国の高校及び大学の教員が自由に使うことができるよう、8月末までにマーク・トウェイン・ハウスのウェブサイト（<http://www.marktwainhouse.org>）内の日本語ページに掲載される予定です。

マーク・トウェイン・ハウスでのワークショップでは、トウェインの作品のうち、米国の教育課程における言語学および社会科の授業で教材として使用されてきた作品数点を扱います。参加者は、マーク・トウェイン・ハウスの研究員と、マーク・トウェイン研究ならびにアメリカ文学・歴史分野における著名な研究者による講義を通じ、トウェインがハートフォードで暮らした日々の功績や作品の社会背景を学び、それらを効果的に授業で扱う方法について研究します。

マーク・トウェイン・ハウスの理事を務める、ハートフォード生命代表取締役社長グレゴリー A. ボイコは、次のように述べています。「日本とアメリカの文化的・教育的交流を支援することができ、大変うれしく思います。津田塾大学の皆さんには、今回の教員向けワークショップに参加することによって、ハートフォード市の最も有名な市民であるマーク・トウェインが、アメリカ文化と異文化理解の促進に偉大な功績を残したということを知って頂けたことと思います。トウェインは、『旅をすることは、偏見を無くすために有効である』と述べています。トウェインについて学ぶことによって、アメリカ社会の成熟期における社会問題をも理解して頂けたことでしょう。そして学んだことを、現代の日本社会に役立つように、近い将来教壇で活かしてもらいたいと願っています」。

また、マーク・トウェイン・ハウス館長のデボラ・ペッキー氏は、次のように述べています。「昨

年に引き続き、日本からワークショップへの参加者を迎えることができたことを非常に光榮に思っています。マーク・トウェインは多くの国を訪れており見聞が広く、異文化理解が彼の作品テーマのひとつになっていました。マーク・トウェインの作品が現代においてもなお価値があるということ、参加者の皆さんが日本で広めて下さることを期待しています」。

トウェインは家族とともに、1874年から1891年までハートフォード市に居住し、「トム・ソーヤの冒険」、「ハックルベリー・フィンの冒険」、「アーサー王宮廷のコネティカット・ヤンキー」などの著名な作品を世に送り出しました。その同時期に、日本人初の女子留学生の一人として、津田塾大学創設者である津田梅子女史はアメリカに滞在していました。帰国後、梅子女史は、高等教育の場を提供することで日本女性の地位向上に寄与したいとの願いから、1900年に女子英学塾（津田塾大学の前身）を創設しました。現在、津田塾大学は彼女の意志を継ぐべく異文化交流と異文化理解の促進に努めています。

ハートフォード生命は、地域社会の“クオリティ・オブ・ライフ”すなわち、市民生活の質的向上のための活動を支援しています。数々の社会貢献活動の中で、最も注力する分野は教育です。教育は、自律的かつ永続的な市民生活の質的向上につながるものである、と考えています。ハートフォード生命は、一企業市民であり続けることを望み、今後も企業活動を通じて社会的責任を果たしていきたいと考えています。

ハートフォード生命保険株式会社について

ハートフォード生命の個人年金保険販売は2000年12月の営業開始以来、好調に推移し、2007年3月末現在、変額個人年金保険の特別勘定資産残高でみた同市場のシェアは約24.7%と、ナンバーワンの実績を収めています。* 『年金の達人@』ハートフォード生命は、優れたリスク管理と卓越した商品開発力とともに健全な財務体質を維持しながら、お客様が退職後の大切な資産を有効に運用・活用して、経済的に安心してすごしていただけるように、最適なソリューションを提供するトップ・ブランドを目指します。ハートフォード生命に関するより詳細な情報については、当社のウェブサイト（www.hartfordlife.co.jp）をご覧ください。

*保険毎日新聞 2007年6月7日掲載記事による

* * *

ハートフォードについて

フォーチュン100社の1社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所取引コード: **HIG**、以下「ハートフォード」）は、米国で最も由緒ある大手保険および金融サービス会社の1つであり、ミューチュアル・ファンドを含む投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体年金、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険などを提供しています。2006年における収入は約265億ドルに達しています。ハートフォードは、日本、ブラジル、英国で国際事業を展開しています。ハートフォードに関する詳細な情報についてはウェブサイト（www.thehartford.com）をご覧ください。ハートフォード生命保険株式会社は、ハートフォードの日本法人です。

本リリースには、米国1995年私募証券訴訟改正法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)において定義されている将来の見通しに関する情報が含まれています。投資家の皆様にはこのような将来の見通しに関する情報が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様におかれましては、当該リスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解いただきたいと思います。このような重要なリスクおよび不確定要素には、米国証券取引法により報告が義務付けられている四半期の報告書(10-Q)や2006年の年次報告書(10-K)に記載されている項目が含まれます。また、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

<この件に関するお問い合わせ先>

ハートフォード生命保険株式会社
調査広報部広報ユニット
白土朋之/戸川明美 電話: 03-5777-8000